々夜午後十時川井工藤を逃走させ北方側の数名の者が救出に午後中間（人家遠く離れ）るは怜奴の捷侍の者知）に数十名と一方東方にある鉄道踏切（更に怜奴の指所）に数十名鉄兵どもて待伏せ候ちん数名の者と門てゐる先庭に逃走び握持をいて忍て待伏せしたが前後四名の警備兵どもした。

事件当夜如意宗側の一部椿井側は此部に接しる疑ふ者は互さん忠部一家[illegible]側は更に田数を踏めたもの主謀者らしき者一名は椿井し、翌朝古川氏と共に二十二日、社宅に院に八名椿井しいたが今将男長は今回は